

北斎祭りで行ったこと

弘前ねぶた展示(7月9日～11月28日)



灯りのフェスティバル(10月12日)



北斎祭りメイン(10月26日)



ねぶた絵描き(10月27日)



北斎祭り 弘前ねぷた展示

亀沢ゆかりの地である弘前の
扇ねぷた・ねぷた絵・金魚ねぷたを展示



実施日・実施場所

7月 9日～ 7月15日:タムスわんぱく保育園墨田	7月16日～ 9月 1日:東武ホテルレバント東京
9月 2日～ 9月30日:墨田みどり保育園	10月 1日～10月27日:渡辺パイプ株式会社両国ビル
10月29日～11月28日:第一ホテル両国	12月26日～ :第一ホテル両国(再展示)

見学者数 :約880名(※9月1日～11月28日の期間中)

北斎祭り 灯りのフェスティバル

震災や戦災で亡くなった先人への追悼や豊かなまちづくりを願う

キャンドルライトアップイベント



実施日 : 10月12日

実施場所 : 大横川親水公園噴水広場

見学者数 : 約650名

描画協力 : 約350名 設営協力 : 60名超

北斎祭り メイン

地域と関わりのある団体・個人による
パフォーマンス・展示・ワークショップ



実施日 : 10月26日

実施場所 : 緑町公園・すみだ北斎美術館MARUGEN100(講座室)・北斎通り

見学者数 : 約6500名

参加団体数 : 18団体(個人参加含む)

北斎祭り ねぶた絵描き

亀沢ゆかりの地である弘前のねぶた絵師による
ねぶた錦絵を即日で描く実演



実施日 : 10月27日

実施場所 : すみだ北斎美術館MARUGEN100(講座室)

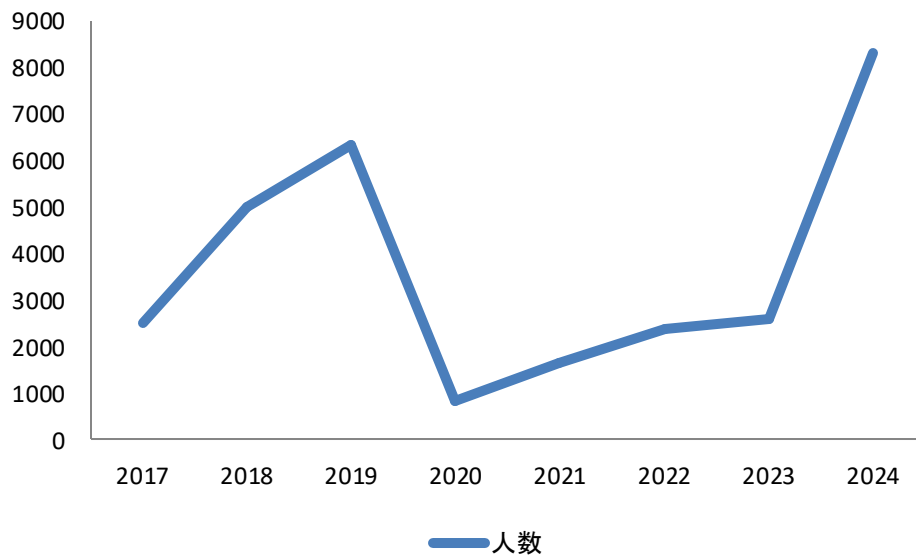
ねぶた絵師 : 三浦吞龍

見学者数 : 262名

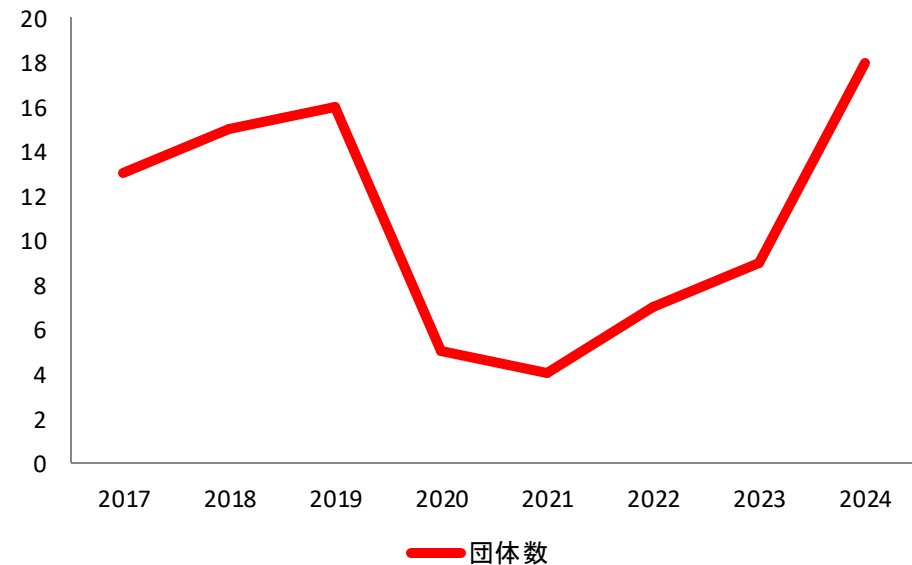
成果 関わる人数の回復・増加

参加者数・協力団体数ともにコロナ禍前の水準を超える
設営・撤収など150名を超える地域住民の協力を得る

参加者数



協力団体数

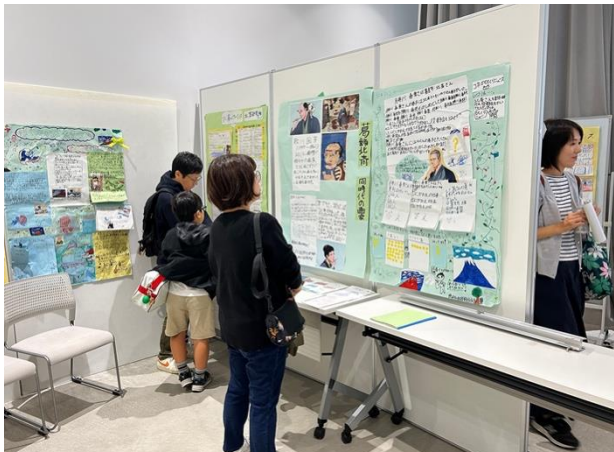


参加者・協力団体数増加の要因として考えられること

- イベントへの参加や自己表現をしたい個人・団体が地域に多くいる
- 地域ゆかりの催しを行うことで人々の関心を得られた

工夫① 地域の人々の表現の場をつくる

二葉小学校3年生
地域学習展示



墨田みどり保育園年長児
制作Tシャツ展示



亀沢着付けの会
着付け体験



墨田区躰道志錬会
躰道演武



日本大学第一中学・高等学校
吹奏楽部演奏



江戸木遣り睦 聲乃會
木遣り披露



工夫② ゆかりの地から協力を得る

青森県弘前市 弘前ねふた運行



青森県人会 金魚ねふたづくり



東京都板橋区
西洋流火術鉄砲隊保存会 砲術演武



静岡県伊豆の国市 江川英龍展示



◎ 規模拡大への対応

- イベント当日および一定期間の協力者を募る
 - 地域活動への参加を声がけしていく
- 無線機やテントなど、災害時にも使用可能な備品を充実させる必要あり
 - 各町会共通のテントやスピーカーセットを購入した

◎ 地域へのフィードバック

- イベントで培った地域内連携を災害時や非常時に生かす
 - 弘前ねぶた運行時に行った各町会の無線機連携を災害時に活用
- 景観まちづくり活動の活性化
 - 地域活動への関心は増しており、人々が参加しやすい催しを行う

今後の展望・展開

◎ 持続可能なイベント開催を目指す

→補助金に頼らない会計計画(今年度は総額の35%が補助金)

→幅広い世代を巻き込むため、親子で参加可能な催しを増やしていく

◎ 2025年度の北斎祭り(予定)

灯りのフェスティバル 10月11日(土)

北斎祭り 10月25日(土)

弘前関連イベント 10月26日(日)